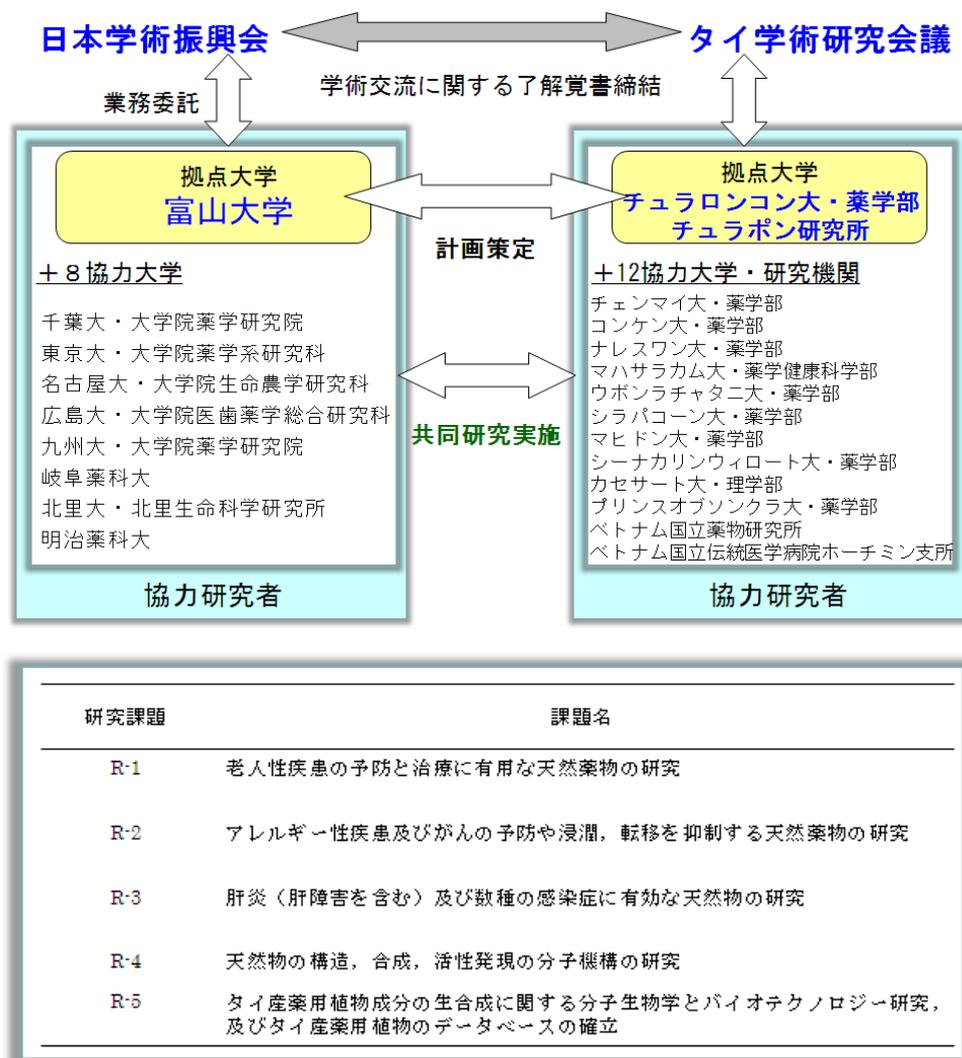


日本学術振興会拠点大学方式によるタイとの学術交流事業

本事業で、2001年度（平成13年度）に日本学術振興会（JSPS）の支援を受けて「薬学分野・天然薬物」を交流分野・研究テーマに、富山大学・和漢医薬学総合研究所（旧：富山医科薬科大学・和漢薬研究所）を日本側拠点大学としてスタートした国際交流事業である。タイ側対応機関はタイ学術研究会議（NRCT）で、タイ側拠点大学・機関であるチュラロンコン大学およびチュラポン研究所を中心に12協力大学が参加した。東南アジアの薬用資源を活用して老年性認知症、生活習慣病、新規ウイルス性感染症などの難治性疾患の予防や治療に有用な薬物のシーズ（種）を探索し、新しい薬物の開発を行なうことを研究目標に設定している。研究者交流、共同研究およびセミナー・フォローアップミーティング等を実施し、タイ薬用植物を中心に「天然薬物」に関する薬学的研究において多くの成果を挙げた。本事業組織と研究課題は下記の通りである。

事務組織と共同研究課題



タイとの拠点大学交流事業は、10年間の実施期間を経て、2011年3月末に完了した。これまでにタイ・ベトナムの約12,400人・日数（総派遣人・日数と総受入人・日数の合計）に及ぶ研究者交流が活発に行われた。